

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな差えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 694

2025年 1月

増刊

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 沖縄県の人口動態 2
- 「コールガール」ほか 6
- お便りから 10
- 飯田線の旅 15
- ホテルで閉め出された! 17
- 24年最後の山仕事(12月、大甲) 18
- 躰きの石にしないでください 20
- 印刷機がグズった 21
- トランプが表れる偉大なアメリカ 22
- 特攻 志願ではなく命令だった 23
- 安定発電と脱炭素 原発以外ない 24
- 核戦争を回避した中佐の判断 25
- け・い・じ・ば・ん 26

ペジ



泉ゆきを『いはいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

メール配信をご希望の方は、

<suzukikosei.san@gmail.com>へ。

三宅伊都子さんが

対応して下さいます。

月 日現在の
会員数183名

題 字 故 佐村隆英和尚(千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、冬のグリーティング。

24年最後の山仕事(12月大平)

12月19日(水)。寒波の到来で、ほんだ駅に向かう途中、雨つぶとは違ふものが顔に当たる。しかし、路面をぬらす程ではない。

天浜線敷地駅で、正士、久米さんに迎えられる。若林さんは欠。

まずは、深澤さんの豊岡農園へ。おどろいたのは、ミカンの姿が全く見当らない。こんなことは初めて。天候やカラムシにやられてダメという事だった。いつもは暮れの餅つきのため、餅米とすき間にミカンと詰めて送ってもらうのだが、餅米(近所の農家)もカラムシにやられてしまったそうだ。世上騒がれている野菜の高値も、いろんなことがあったのだろう。

それでも深澤さんは、猫の手のためにハネたミカンとコンテナノ杯くださった。およそ20kg。ありがたいことだ。

買物に行く4名と別れ、正士さんとぼくはおうちに直行。ここでも変化が起きていた。お母さんが苦しいのだ。肺炎といじ不全で磐田病院へ入院されたとのこと。これはさらなる変化に通じるが、それはのちほど。

日の短い時期。家の近く、佐野光延さんちの廻りの草刈りにかかる。面積は小さいが、4か所に分かれている。まず、道路脇の草刈り。佐野さんちから道路に出ると、左側に高さ6~7mの崖が続く。モラルを吹きつけてあるが、いくつものすき間から草がのびている。山崎さんが脚立をのばして刈り取る。原田さんは崖の外れ、新田橋に近いところの斜面の草刈り。竹中さんとぼくは、側溝沿いの草刈り。一帯はオ cott ビの群落。オ cott ビとは、夜服や獣の毛にひついて種子を拡散する植物の総称。これがくっつく取るのに苦労する。とりわけ山崎さんはひつきやすい衣服だったため、夜になって久米さんに手伝ってもらい、ノミとり眼でとり続けていた。崖上茶園沿いのススキは、竹中さんが刈り取る。やりかけで日暮れに。

例によって、東江、久米さんが用意してくれた夕食は。

(夕) 刺し身(ボラ、アジ。ボラは、山崎さんが遠鉄ストアで目をつけたもの。ヤブジラミ量も多く、よい買物だった)、豚汁、カブの酢の物、きんぴらゴボウ、白菜とレインコンのシーチキン炒め、白菜漬け、ピリカすもやし漬け。

内田美智子さんから、福砂屋のカステラを2棹いただきました。

この夜、啓史さんも同席、会食後懇談。

冒頭、正士さんから状況報告。元気ではあるが、腫瘍マーカーの数値が上昇気味。食欲も減衰気味で体の力が少しずつ落ちている。年明け1月17日に診察があり、その様子によっては介護施設に入るつもり。4か所の施設に目をつけており、それぞれお向いて様子をみているとのこと。かねて予期していたことだが、お母さんの入院が踏み切る気

台
正士さん

台
池谷さん

台
佐野さん

水
新田橋



オナメシ



スズビイギ



持ちにさせたのみ。

啓史さんからは、以前よりもやわらかさが感じられた。話し合いを始めた頃は「父と同じこと(猫の手の受け入れ)をするつもりはない」と頑だったのが、この夜はあるていど受け入れてもよいという気持ちになっていた。具体的には、留守宅の使用を許してくれるというのである。これはありがたいこと。トイレを使わせてもらうだけでもありがたい。

啓史さんの気持ちの変化を受けて、今後の猫の手の運営をどうするか。内々で話し合った結果は次のようなものだ。

- 活動の拠点は、正士さんちから、隣の森町薄場のスミさん宅にお願いする。
- 作業は、これまで続けてきたご近所の関係が中心となり、薄場での作業も手伝わせよう。
- 啓史さんは、留守宅の環境は守るという意向。しかし、水田は季節ごすむが、茶園は一人では無理。啓史さんから要請があれば、家のまわりの草刈りなど手伝うことも。
- 作業の実施に当たっては、正士さんにご近所の意志を確かめもらった上、栗田さんが各戸との連絡調整に当たる。
- 正士さんの山林、水田、茶園の作業がなくなれば、毎月の作業は見直し回数を減らす。
- 作業の際の会費(3000円)では赤字と分かっていたが、正士さんの家業を手伝っているという実を加味して決まっていた。今後、改定する。

12月20日(金)、うす晴。スミさんも参加して佐野さんちの草刈りの続き。終って井戸谷(栗園)の草刈り。以前何かで読んだのだが、小川の呼び方は日本の東西で違うんだそうですね。東日本は「沢」が多く、西日本は「谷」が多いという。当地は「井戸谷」と「ガニヶ沢」(正士さんちの近く、溜池の脇。いつも水がなく、正士さんに言われるまで沢とは思えなかった)が混在する。

(昼) けんちゃんうどん、おにぎり(何個だったか)、カステラ。

午後は、正士さんちの周囲、庭と敷地裡に下りていくスロープの草刈り。終って「あらたまの湯」へ。

夜は、青山さん、袴田さんが参加。青山さんによると、雨が降らないので(栗木)シタケの収穫皆無とのこと。どちらも大変だ。

(夕) 大根と豚バラ煮、ブリの寄せ鍋、紀文の魚河岸揚げとレンコン天、ポテサラ、レンコンのきんぴら、白菜漬。

12月21日(土)くもり後小雨。刈り草をとりまとめ、処分。冬至とあってカボチャカレーを頂き、正士、スミ、竹中さんに見送られ帰宅。

一年間お疲れさま。事故もなくよかったですね。